

# 製品リサイクルの推進

国内外でのリサイクルシステムの構築・拡大を通じて  
使用済みIT製品の回収・再資源化を推進。  
拡大生産者責任(EPR)を果たし、資源循環型社会づくりに貢献していきます。

## 第4期環境行動計画目標

海外	リサイクルシステムを、2004年度末までに欧州、2006年度末までに北米、アジアで構築する
国内	回収した使用済み製品の資源再利用率を、2006年度末までに90%達成 回収した廃プラスチックの再生利用率 <sup>1</sup> を、2006年度末までに20%にする

## 2004年度の実績

海外	欧州のグループ会社ごとにリサイクルの仕組み(個別・共同)や物流・リサイクルパートナーを決定。今後は各国の法制化に合わせ、確認・調整を図り運用
国内	資源再利用率 <sup>2</sup> は88.3%となり、2003年度実績から1.7ポイント向上 分別したプラスチックは、イベントグッズとしてEco clip ケースやうちわなどに再生利用

## 海外での取り組み

### 海外における リサイクルシステムの構築

海外では、製品の回収を担当するロジスティクスパートナーと、リサイクルを担当するリサイクルパートナーを選定し、リサイクルシステムの仕組みを構築しています。



欧州環境会議

#### 欧州

欧州の富士通グループ会社は、年2回、欧州環境会議を開催しています。  
この会議を通して、グループ会社各社のビジネス状況、業界団体の意向およびEU各国の法制化時期や内容などを把握しながら、パートナーの選定を進めました。

#### 北米

米国カリフォルニア州のグループ会社では、州政府主導のリサイクルスキームによるパソコンのディスプレイのリサイクルを開始しています。  
今後も、州法の法制化状況を逐次把握

しながら、グループ会社の販売製品とビジネス規模、および販売チャネルなどをもとに、グループ会社の主体性を活かしたリサイクルシステムの構築を進めていきます。

#### アジア

韓国と台湾のグループ会社は、すでにパソコンのリサイクルを開始しています。今後は、リサイクルシステムの充実を図ります。  
また中国でも、使用済みIT製品のリサイクルの要請が高まっており、法制化の状況も勘案しながら、リサイクルシステムの構築を進めていきます。

## 国内での取り組み

### 国内における 製品回収・リサイクルの仕組み

法人のお客さまの使用済みIT製品は、全国7カ所のリサイクルセンターと全国をカバーする物流ネットワークで構成される「富士通りサイクルシステム」を活用して回収し、再資源化しています。

また、富士通は産業廃棄物広域再生利用指定制度の指定業者として、環境省から認可を受け、回収・再資源化を強化しています。

個人のお客さまの使用済みパソコンは、日本郵政公社と連携した業界共通の回収システムを利用して回収し、再資源化しています。

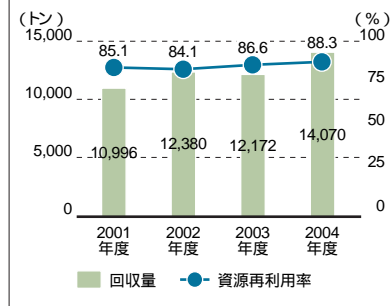
### 回収・再資源化実績

法人のお客さまの使用済みIT製品の総回収量は、新札切り替えを背景としたATM機の切り替えの増加などにより、14,070トンとなりました。

資源再利用率は88.3%となり、前年度実績から1.7ポイント向上しました。これは、廃プラスチックの分別強化と資源再利用先の開拓によるものです。今後も資源再利用率向上への取り組みを継続していきます。

個人のお客さまの使用済みパソコンの回収・再資源化量は、自治体からメーカースキームへの移行が進み、54,344台と着実に増加しています。

### 事業系使用済みIT製品の 回収量と資源再利用率の推移



#### 1 再生利用率

回収した使用済み製品に使われている廃プラスチックの総重量に対する、回収廃プラスチック材料を活用して富士通グループ開発の製品や一般備品等の素材などとして再利用した重量比率のこと。ただし、ハロゲン元素を含有するプラスチックと、金属が付着するものは対象外とする。

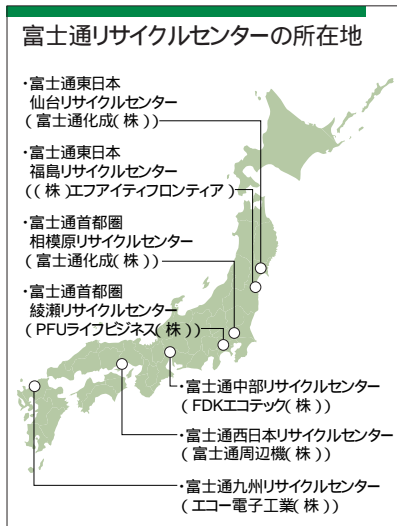
#### 2 資源再利用率

社団法人電子情報技術産業協会で示された算定方法に基づく、使用済み製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率のこと。

## 再資源化の推進

### リサイクルセンターを拡充

富士通リサイクルシステムのさらなる円滑な運用とお客さまの利便性向上をめざして、2005年2月より富士通東日本福島リサイクルセンターを設置しました。



### 企業間連携によるリサイクルを推進 計測機器のリサイクル

富士通(株)アドバンテストは富士通リサイクルシステムを活用し、アドバンテスト製品(半導体試験装置・計測器)を回収し適正にリサイクルするための「アドバンテスト・リサイクル・システム」を構築し、2004年8月より運用を開始しました。

### トナーカートリッジのリサイクル

富士通と富士通コワーコ(株)は、富士通ブランドの法人向け全レーザープリンタの使用済み消耗品を無償で回収し、リサイクルしています。回収されたトナーカートリッジは、検査・清掃後、工場に戻し再生品として再利用しています。

<http://www.fmworld.net/product/hard/printer/sup/cart.html>

[お問い合わせ]

フリーダイヤル 0120-300-693

## リサイクル技術の開発

### ガラス繊維強化難燃ポリカーポネートのマテリアルリサイクル

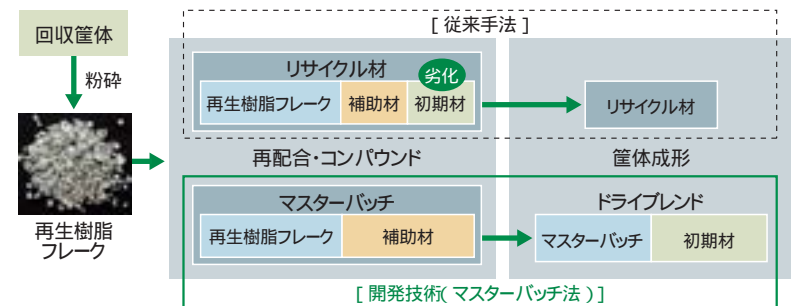
富士通(株)富士通研究所は、ノートパソコンの筐体を使用されている「ガラス繊維強化難燃ポリカーポネート」をリサイクルし、物性を維持したまま、再びノートパソコン筐体を製造する「マスターバッチ技術」をガラス繊維メーカーと共同で開発しました。

この技術を適用したリサイクル材を製品

に使用することで、資材調達時のエネルギーの削減が図れます。これにより、ライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出量は約20%削減されます。

#### マスターバッチ技術

再生樹脂フレークにあらかじめ、補助材などを加えて、コンパウンドしたペレットを製造し(マスターバッチ化)、成型時に初期材とブレンドすることで材料の劣化を回避する技術。



### プラスチック分別の高度化と再生利用を推進

プラスチック材質による分別だけではなく、難燃剤含有の有無による分別を行うために、専用の識別装置をリサイクルセンターに導入し、分別の高度化を進めています。

また、分別したプラスチックは、Eco clipケースやうちわなどイベントグッズとして再生利用しています。



うちわ



Eco clip

### 解体マニュアル 電子管理システムを構築

使用済みとなった富士通のIT製品を適正に処理するため、ウェブサイト上で解体・処理の手順などに関する情報を富士通リサイクルセンターに提供するシステムを構築しました。このシステムでは、含有化学物質、プラスチック部品の材質、顧客データが保存されるユニットなどの製品リサイクル情報とともに、動画形式の解体マニュアルなども表示しています。

### 顧客データの漏洩防止策を強化

富士通リサイクルシステムでは、回収した製品の顧客データの漏洩を防止するため、消去ソフトや強力な磁気によるデータの抹消、専用装置による物理的な破壊など、お客さまの要請に対応できる体制を整えています。